

どうぶつこうえんニコース



マレーバクのユキミ 5頭目の仔を出産



8月22日にマレーバクのユキミ（13歳）がオスの子どもを出産しました。ユキミはすでに4頭の子どもを出産しているベテラン母さんですが、今回は最終交尾より逆算した予定日より40日ほど早く、朝も変わりがなかったため、放飼場での出産となりました。

お昼頃、お客さんよりバクが子どもを生んだとの連絡があり、職員が駆けつけてみると確かに放飼場

にバクの子どもがおり、興奮している母親のユキミは父親のヤマトと走り回っていました。このままでは危ないので、ユキミをいったん寢室に收容して、子どもは後から職員が抱いて收容しました。ユキミは餌を食べながら徐々に落ち着き、子どもをなめたりし始めました。子どもも立ち上がり、授乳も確認できました。ユキミはすでに3頭の子育てをしているベテラン母さんで、順調に子どもは成長しています。（体重は出産時9.6kg、11日齢16.3kg）9月3日より一般公開も始まり、そのかわいい“うり坊”はお客さんの人気を得ています。

国内でマレーバクの飼育頭数は約30頭と少なく、その繁殖は年間1例程度しか見られなくなりましたが、当園のペアは5回目の繁殖で3頭が成獣となり、多摩・よこはま・安佐の園館にプリーディングローンとして貸し出されています。ヤマトとユキミの三世も楽しみにしていますが、この子の成長を見守り、次の繁殖を目指したいと思います。

濱田 昌平 (Masahira Hamada)

目次

CONTENTS

表紙【ミナミコアリクイ】	①
トピックス	
【マレーバクのユキミ 5頭目の仔を出産】	②
連続講座	
【動物公園で「ウマのはにわ作り」に挑戦！】	③
特集記事【アジアゾウのトレーニング】	④・⑤
聴覚障害者の方とともに	
バードウォッチングを楽しむ	⑥
動物公園日誌から【'04.8/1〜'04.10/31】	⑦
裏表紙【ハシビロコウの卵】	⑧
Information	⑧

表紙の動物説明 ミナミコアリクイ

コアリクイには、ミナミコアリクイとキタコアリクイの2種が知られており、いずれも密な剛毛におおわれている。また、物に巻きつけることのできる毛のない尾を持っていることで、木登りの際に役立つ。耳はかなり大きく、鋭い聴覚を持っていることをうかがわせる。当園で飼育している個体は、ミナミコアリクイで13の亜種に分けられているうち、体色が金色地にベスト状の黒い毛の帯となっているため、アマゾン流域の南東部にすむ個体群と考えられる。コアリクイは、シロアリとアリを食べることに特殊化していて、においてそれらを発見し、円筒状の40cmも伸ばすことができる舌でなめとる。飼育下では、牛肉とヨーグルト、蜂蜜等をミキサーにかけ、与えている。

小林 正典 (Masanori Kobayashi)

撮影：宮川 千尋 (Chihiro Miyakawa)

動物飼育数

平成16年10月末現在の飼育数

Classified number of animals
as of 31.Oct.2004

哺乳類	67種	385点	両生類	1種	1点
鳥類	77種	291点	魚類	0種	0点
爬虫類	5種	24点	総計	150種	701点



それは
ボク？



動物公園で、
「ウマのはにわ作り」
に挑戦！

久しぶりのお日様に恵まれた 10 月 17 日の日曜日、園内は 1 万人のお客様をお迎えしました。その日、家畜の原種ゾーンの一角で、はにわ作りが行われました。世界に唯一残る野生馬、「モウコノウマ」をモデルにして、「ウマのはにわ」の復元に挑戦したのです。

挑戦者は、あらかじめ募集した 11 名の方です。遠く流山市から応募していただいた小学生もいらっしゃいました。朝 10 時から夕方 4 時までの長い時間でしたが、はにわ用の固い粘土にも挑戦していただき、なんとか形になりました。

指導していただいたのは、国立歴史民俗博物館の杉山晋作先生です。また、中学校の先生で、陶芸作家でもある伊藤国宏先生にもお手伝いいただきました。

日本の動物園で、歴史系の博物館のご協力を得てはにわを作るとするのは、おそらく日本で初めての試みでしょう。

でも、なぜ「はにわ」なのでしょう？

はにわは、古墳時代に、粘土で作って釜で焼いたもので、古墳のまわりにたくさん並べられたものです。



円筒はにわと形象はにわの 2 種類がありますが、どちらも中が空洞の焼き物です。中でも、古代に初めて日本にやってきた「ウマ」をモチーフにしたはにわは千葉県でも数多くみられ、人々に大切にされてきたことがわかります。当園には、その当時にみられたウマとほとんど同じ特徴をもったモウコノウマがいますので、当時の人々の気持ちになり、はにわ作りを通してウマをよく見る、それが目的でした。

さて、1ヶ月の乾燥期間を設けて、焼成は 11 月下旬、うまく焼き上がれば 12 月の冬休みには展示を考えています。みなさんにお見せできるのを楽しみにしています。

並木 美砂子 (Misako Namiki)

参加者の感想

昔のはにわ作りは手づくりで、いきなりはにわをな
からエコ作るのに何時間もかけて作ったということが
すごくわかりました。他に中をどうにすると
いいかといふこともいろいろと
はにわを一通りつくりましたが、不安定なため、こわく
足を利用してもう一度作りなおしました。しょういんのが
手伝ってくれて、なんとか上手なウマのはにわを
作れました。
また、こういう行事があれば参加してみたい
です。

流山市 加芝 由樹穂(小4)



個性的い〜





アジアゾウの トレーニング

(ターゲットトレーニングの実施について)

当園では、1987年よりオス1頭（スラタラ、現在19歳）、メス1頭（アイ、現在21歳）の2頭を飼育しています。

来園から数年間は「直接飼育」（ゾウに直接接触し、馴致調教を行う）を行っていましたが、オスの成長に伴い、担当者への攻撃的な行動が確認され始めたため、1994年より「直接飼育」から「間接飼育」（ゾウに直接接触しない）へと飼育方法を変更しました。変更後もゾウとのコミュニケーション等として、ボイストレーニング（声かけによる調教）は続けてきましたが、このままの「間接飼育」では、ゾウの近くに寄れないため、体調が悪くなったりしても治療などが行えません。

そこで、アメリカの動物園や国内の多くの動物園で行われている、ターゲットトレーニングを今年から行うことにしました。「ターゲットトレーニング」とは、ターゲット棒（目標物）にゾウに指示をした部分（足や耳など）を触らせるというトレーニングであり、最終的な目標は、ゾウの耳から採血、足の爪を削ることなどが柵越しからできるようになることです。

このトレーニングは、ゾウに無理やりやらせない、できなくても怒らないことが原則であり、水族館のイルカやアシカのトレーニングに应用されているオペラント条件付けという考え方に基づいたトレーニング方法です。



ターゲット棒（赤い部分をゾウに触らせる）

さてオペラント条件付けとは、一体どんなことなのでしょう？ たとえば、イルカがジャンプをしたときに、餌を与えることを繰り返すとイルカは人を見るとジャンプをするようになります。次に合図を加えていき、笛に合わせてジャンプをしたときを選んで餌を与えます。するとイルカは笛の音、ジャンプ、餌を結びつけて認識します。オペラント条件付けとは、動物の自発的な行動（もともと動物が自然にできること）を、条件付け（食べ物・合図・目標物）をすることで、特定の行動がたびたび表れるようにすることです。

トレーニングを始める前に、まず多摩動物公園と鴨川シーワールドでお世話になり、それぞれゾウのターゲットトレーニングと、イルカのオペラント条件付けについて教わってきました。

次にやらなければいけないのは、ゾウにターゲット棒を馴らすことです。今回、私達がターゲット棒に使用したのは竹です

が、2m以上ある棒をいきなりゾウに近づけては、ゾウは驚いてしまいます。ゾウの見えるところに、ターゲット棒を置いて、安全な物であることを理解させなければいけません。

これと並行して合図（トレーニングが始まったら良くできたという意味）を出しながら餌を与えます。これは、「合図＝餌」をゾウに解らせるためです。2頭には、自分が合図されているのが解るように、オスには笛を、メスにはクリッカー（押すと音が鳴る物）と別々のものを使用しました。この準備を7月頃から1ヶ月かけて行い、8月頃からターゲット棒を実際に使ったトレーニングを始めました。



笛



クリッカー



餌（干し草を固めた物）

トレーニングはゾウに負担がかからないように10～15分ぐらい、ゾウがやりたがらないときは、途中でトレーニングを中止すること、そして、2人以上で行っていきます。

しかし、実際に棒をゾウに近づけると、とても気の強いオスは棒を取ろうとし、とても臆病者のメスは逆に近づいてこなくなり、近づいてきても棒が怖いらしく、そっぽを向いていました。1週間ぐらいでメスはだいぶ棒に慣れてきました。

次にゾウに棒を触らせるのですが、いきなりやってもゾウは

どうすればいいのかわからず、棒を触ることができません。最初に鼻を触らせることを教える場合は、鼻が棒に触れなくても、少しでも近づけてきたら、合図を出して餌をあげます。そうすることによって「こう動いたら、合図が鳴り、餌がもらえた」ということが解っていますので、今度はもう少し近づけてきます。このときにまた、合図を出して餌を与えます。前回より少しでも近づけてきたら合図を出して餌を与えることを繰り返していくと、ゾウがターゲット棒に鼻を触れてきます。このときにゾウに号令をかけてあげます。これによりゾウはこの号令がどの部分に触れば良いかを覚えていきます。そして、号令をかけた部分に触れば、合図を出してもらい、餌をもらえることにより、自分のほうからターゲット棒に触ってきます。これを利用して、新しい箇所も教えていくのですが、1日に何箇所もゾウに教えるとゾウのほうも戸惑ってしまうので、新しく教えることは1日に1箇所、その箇所をほぼ理解したら、次の箇所を教えるということを繰り返していきます。

現在のトレーニングの進み具合ですが、オスは、少しだけ鼻で棒を触ることを覚えたようですが、機嫌が悪いとすぐに鼻でつかもうとします。しかしメスは、鼻を覚えると他の箇所も覚



左耳
(耳からの採血ができるようになるため)



右足
(足の爪を削ったりできるようになるため)



鼻
(口の中や牙の状態を見ることができるようになるため)



頭
(体の位置を決めるようにするため)

えていくのが早くて、完璧ではありませんが、私達が予定をしていた10箇所（鼻、頭、左右の耳、左右の前足、左右の後足、左右の腹）のうち、左右の腹以外の8箇所に触れることを覚えました。

余談ではありますが、先にオスのトレーニングを始めるのですが、メスはその様子を覗きにきて、しばらくするとトレーニングを行う場所で待っていますので、トレーニングが楽しいように思えます。それぞれ性格が違いますのでトレーニングの進み具合も違ってきますので、今後もゆっくりとトレーニングを進めていきたいと考えています。また、毎日ではありませんが、午後1時15分ぐらいから30分頃まで、ゾウの運動場で、メスのトレーニングはご覧になれます。

最後になりましたが、ターゲットトレーニングを始めるにあたり、ご指導ならびにご協力いただきました、多摩動物公園と鴨川シーワールドの関係者の方々に、この場をかりて深く感謝いたします。

浅野 洋之 (Hiroyuki Asano)

ゾウ班 古谷 保生 (Yasuo Furuya)

〇足立 仁之 (Masayuki Adachi)

中村 彰宏 (Akihiro Nakamura)

聴覚障害者の方とともに バードウォッチングを楽しむ



当園では開園当初より年に1回、バードウォッチングを開催していますが、平成14年より手話通訳者を要請し、一般のお客さんとともに聴覚障害者の方も参加していただけるようになりました。私が手話と出会ったのはかれこれ4年前でした。市の手話講習会に参加したのがきっかけで、手話を学ぶとともに、聴覚障害者の方の置かれている現状や問題点などを学ぶことができました。そんな中で何か動物公園でもできることはないかと考えたとき、思いついたのがこの企画でした。バードウォッチングというのは鳥が見つからなければ始まりません。鳥を探すうえで目で探すのと同様に耳で探す（鳥の鳴き声、気配など）のも重要です。耳の不自由な人には難しい作業です。そんな方でもいっしょに楽しめたらというのが始まりでした。



真冬の1月、しかも朝8時から開始にもかかわらず、最初の年は4人、そして次の年は8人、その次の年は6人の聴覚障害者の方が一般のお客さんとともに参加してくれました。

探鳥は主に公園内の大池周辺で行われましたが、今見えている鳥を図鑑で探し、皆さんに鳥の写真を見せるなど配慮をしました。実際鳥を探す作業と手話を読む作業が同時には成立しにくく、苦勞をかけたようですが、手話講習会に以前いっしょに参加した市の職員の方にボランティアとして参加していただき、フォローをお願いしました。また10時から科学館内レクチャールームで、その日見られた鳥について講師として参加した職員から解説があり、そ



れも手話通訳者の方に通訳してもらったので、野鳥に対して理解を深めていただいたと思います。おかげさまでアンケートの結果もおおむね好評で、“今回参加してよかった”“また参加したい”などのご意見が大半を占めました。

今後は、参加者に高齢の方が多く、バードウォッチングに関しては初心者の方が多いので、もう少し暖かい時期（3月ごろ）、もう少し水鳥などが多く生息するところ（千葉公園など）に場所を移して、聴覚障害者の方専門に開催するなど検討しています。

まだまだいたらないところも多く、試行錯誤の段階ですが、これからも聴覚障害者の方のみにかわらず、すべての障害のある方にとって利用しやすい、バリアフリーな動物公園目指して努力していきたいと思っております。

飼育課 伊藤 泰志(Yasushi Itou)





動物公園日誌から

From Zoological Park Diary

’04年8月1日～’04年10月31日

- 8月1日 ザ・サンデー千葉撮影
- 8月2日 モウコノウマ、マウントをする
- 8月3日 アジアゾウ、ターゲットトレーニングをする
- 8月7日 アジアゾウ（雌）、ターゲット棒に鼻で触れてくる
フサオマキザルの仔、オスと判明
- 8月9日 オオカンガルー、繁殖
- 8月10日 ゾウ舎、床工事終了
- 8月11日 ハシビロコウ、産卵
- 8月13日 ミナミコアリクイ（雄）、検疫明け
- 8月16日 実習生2名受け入れる
- 8月19日 トナカイ出産 元気がないため、人工乳を与える
- 8月20日 トナカイ（仔）死亡
コンタクトコーナー、蜂の巣のある樹洞をうめる
- 8月22日 マレーバク、放飼場で出産（雄） その後、授乳確認
- 8月23日 デマレルーセットオオコウモリ、死産
- 8月27日 アジアゾウ（雌） 耳もターゲット棒に触れる



- 8月28日 Zooキッズデー開催
- 8月29日 クロザル、交尾
- 8月31日 ハシビロコウの卵、展示開始
- 9月1日 ヤク、日中よく鳴く
- 9月2日 マンドリル（雌）、雄に右手がまれる
- 9月3日 マンドリル、麻酔下にて傷縫合
- 9月5日 連続講座② 野生動物保全の歴史
- 9月7日 子ども動物園、団体指導再開
- 9月11日 紙しばい会
- 9月12日 アジアゾウ（雌）、ターゲットトレーニングに後ろ足をつけるメニューをくわえる
ワンポイントウォッチング（アルダブラゾウガメ）
- 9月14日 エミウ、頸部に裂傷 麻酔下で縫合
- 9月17日 市内小学校、校外学習実施

- 9月19日 オランウータン放飼場のケージの外に竹製楽器を設置
- 9月21日 オランウータン放飼場のケージの外に竹製楽器に竹の棒を使い餌をとる餌入れを付設
- 9月23日 オランウータン放飼場のケージ外の餌入れに蜂蜜を入れると雄が枝を使い食べる
- 9月25日 連続講座③ 縄文時代の動物
- 9月26日 ワンポイントウォッチング（パカ）
- 10月2日 写真教室



- 10月3日 グレビーシマウマ、繁殖
- 10月10日 折り紙教室
- 10月11日 オオカンガルーの仔、袋より出るがエミウに踏まれたためカンガルーのみの展示とする
ゆかいな森の音楽会
- 10月12日 バードホール工事のためホール内の鳥の捕獲作業
- 10月13日 アカハナグマ、繁殖
- 10月17日 アカハナグマ、繁殖個体数確認 3頭
連続講座④ 古代のくらしと動物
- 10月20日 キンカジュ、繁殖
- 10月23日 ワンポイントウォッチング（カリフォルニアアシカ）
- 10月24日 オオカンガルー、繁殖
紙しばい会
- 10月27日 千葉市市立高校（40名）、校外学習実施
- 10月30日 秋のZooクイズラリー

編集後記

猛暑の後、雨にたたられたにもかかわらず多くの来園者に感謝しております。当動物公園もベビーブームでした。最近ではバク、シマウマの誕生でにぎわっています。このニュースが発行されるころは、クリスマスもすぐそこ、一年のしめくくりを迎えようとしています。

来年は酉年、当園ではハシビロコウという珍しい鳥がいます。その卵がニュースの裏表紙に載っています。産卵は日本初、残念ながら無精卵でした。

冬に向かって寒さが一段と増す中、お体に気をつけて。なお、次回発行は平成17年3月1日です。

名和 全孝（Zenkou Nawa）



(日本初)



ハシビロコウの卵と親鳥



Information

平成16年11月・12月・平成17年1月・2月の
催し物一覧

- ★ 11月23日🔥 紙芝居会
- ★ 11月28日📺 バルーンアートショー
- ★ 12月5日📺 ワンポイントウォッチング(タンチョウ)
- ★ 12月11日⊕ Zooキッズデー(事前申込制)
- ★ 12月12日📺 紙芝居会
- ★ 12月19日📺 クリスマスシアター
- ★ 1月2日📺・3日📺 お年玉プレゼント
- ★ 1月9日📺 バードウォッチング(事前申込制)
- ★ 2月27日📺 ファミリーシアター